

平成30年度 第1回古賀市文化財保護審議会 会議録

開催日時 平成30年6月28日(木) 10時から11時まで
開催場所 リーパスプラザこが歴史資料館研修室

出席委員 西谷正会長 桑田和明副会長 横田義章委員 森弘子委員 今橋省三委員
出席者 長谷川清孝教育長 青谷昇教育部長
事務局：力丸宏昭文化課長 杉村幸一歴史資料館館長 川原幸恵文化振興係長
井英明文化財係長 甲斐孝司業務主査 岩橋由季主事 大江道子主事

傍聴者 なし

1. 開会の言葉

2. 教育長あいさつ

3. 議事

西谷会長 本日は議事が1件と報告事項が2件予定されている。
議事は、古賀市指定文化財に関する調査審議、谷山の盆綱の案件である。事務局から説明を願いたい。

井係長 (資料1～20ページに沿って諮問内容説明)

西谷会長 谷山の盆綱について地区の区長さんの同意書、そして調査報告を添えて案が出ているが、この議案は、民俗学専門の森先生に意見をいただきたい。

森委員 この調査はもう終わっているのか。

井係長 調査は行っている。調査自体は、「糟屋の祈り」(2008年発行)において、事前調査で私がさせて頂いたものを骨子としている。

森委員 他の市町村では、指定をする場合、専門家が拝見をしてからということになっているが、それはせずにこのまま審議ということなのか。もし行かない場合は映像資料などの提示があるのが普通だが。

井係長 映像はある。

森委員 ペーパーに書いたものだけではなく、これが事実であるかどうかという確認もいる。私が委員になってからは、無形民俗文化財は初めてだと思うので今まで指定されたものについてどうだったのか存じ上げていないが、その辺りがどうなるのか。
映像についても、当日だけではなくて、例えば、綱を作るところなどそういったところも拝見したい。

井係長 とりあえず、今、映像の時間がどれくらいあるかを確認させていただきたい。

森委員 他にいくつか質問をさせていただく。まず、盆綱の場合は青年と子どもが引くというのが通常だが、資料の2ページの3行目から4行目のところの書き方が「綱引きは地元消防団と子どもや大人たちに分かれ」となっている。大人は手伝っているだけなので、本来は子どもだけであるということをしっかり押さえないといけない。

井係長 承知した。

森委員 9行目の「綱は境内脇に輪積みして置くこととなっている」というのは、作ってまだ綱を引く前の綱を輪積みにして置いているということなのか。

井係長 これは終わった後に置いている。

森委員 そうすると、この綱は朽ちるまでそこにずっと置いているということなのか。

井係長 そのようである。一時期、終わった綱を引き上げて、うちの資料館で展示していた時もある。終わってしまった綱については、本当にそこに置いているままのようである。

森委員 承知した。この終わった綱をどう処理するのかというのもひとつ重要な要素ではある。カズラで作っていた時代は、山の木にカズラをかけるといったことをやっているが、戦後は稲藁に変わって、それを朽ちるまで放っておいたということではいか。この稲藁を使用した伝統は戦後 70 年くらいであるということになるか。

井係長 一応、昭和 10 年代頃までカズラなどを使っていたという話である。いつ頃から稲藁に変わったかはよくわからない。

森委員 だいたいカズラを使うのが一般的であった。そうすると、願意が豊作祈願というのはどうかと思う。だから、願意が豊作祈願ということを特に文化財としてのコメントとして載せるのではなく、この盆綱についてはこういう願意が込められているということについて地元で何と言われているかを羅列し、こちらの解釈は無理にする必要はない。

井係長 承知した。

西谷会長 映像のことは何か。

井係長 映像は、今準備している。

森委員 綱は、子どもが 2 勝で青年が 1 勝、これはだいたいどこでもそうなのだが、勝ちの判断はどうやってしているのか。真ん中に印か何かつけて、それがどちらにいつているかとか。

井係長 完全に引ききってしまうということだとされている。

森委員 承知した。最後の時に真ん中から綱を切るとかは、

井係長 それはしないようだ。

西谷会長 8 月 15 日というのは戦後、終戦記念日に移したということではなくて、戦前からか。

井係長 そのようである。8 月 15 日に固定されてやられていたようだ。

森委員 綱を引くのは精霊送りをする前か、した後か。各個人のお宅では、送りはやらないということなのか。

井係長 各戸ではやると思われる。

森委員 それで済んだ後の時間帯なのか、やる前なのか。

力丸課長 そこは、後である。個人的なお家ではいわゆる送り火や納骨堂に行った後、夜になる頃に行っているの、電気が点いていたとか暗いイメージで引いていたことはある。

森委員 どの時間でするかも一つの大きな要素である。前後関係が重要視されているか、もう今はそういう伝承が薄れてしまっているのか、現状の確認を願う。それだからどう不都合というわけではないが、本来は送った後にやっていたとか、送る前にこの盆綱と一緒に精霊を送るのだという意味があるのかとか、一応現状を押さえ、もし古い形がわかれば、また古くからそうなのかというところを押さえていただければと思う。

井係長 承知した。映像の用意ができたので、部屋を移ってご覧いただきたい。
(DVD「谷山の盆綱引き」を鑑賞)

森委員 綱を綱うのが困難だから運動会のロープを使ったりするので、あのようにして作られるのは非常に貴重である。

今橋委員 綱を作っているのは面白い。今、稲藁などはないから大変だろう。

森委員 稲藁はよそから取り寄せるのではなくて、村でキープしてあるのか。

井係長 組で採って取り置きしているようである。

森委員 それだけ力が入っているのだろう。今は、他のところでは藁が手に入らないからどこかよそと契約したりしていて大変であると聞く。

今橋委員 伝承しないと残らないから、綱う技術だけでもすごい。

森委員 やっぱり映像を観させていただくと皆さんも納得されると思う。とても良かった。すごくポイントをきっちり押さえて撮っており、子どもが語りというのがまた良かった。あの DVD はどこで作られたのか。

井係長 あれは地元の方が作成されて、うちへご寄贈いただいた。

西谷会長 それでは、ご質問ご意見はいただきたい承ったが、これは手続き的にはもう一回、年度末の時に答申するということでよろしいか。

井係長 森先生から色々ご指摘いただいたこともあり、その辺を今一度調べさせていただいて第 2 回目にもまた審議にかけさせていただきたい。

西谷会長 この案件、指定の方向で手続きを進めていただくということでよいか。

委員 よい。

西谷会長 今日の映像のタイトルが「盆綱引き」となっており、正名称と違うが、どちらかに統一はされるのか。

井係長 今まで古賀町の広報で盆綱の記事を取り扱っており、その中では「盆綱引き」という名称を使われることも多い(資料 14 ページ参照)。平成 6 年の記事は「盆綱引き」と「盆綱」が混在している。古賀町誌では「盆綱」という名称で取り上げており、併せて地元の方も「盆綱」とおっしゃっているの、で、「盆綱」が適切かと思いいかな様な名称にさせていただいている。

西谷会長 あの映像は、何年の制作か。

井係長 平成 14 年である。

西谷会長 非常に重要な記録だと思うが、一般の市民の方々への PR という意味では、もっとわかりやすく楽しい内容で、10 分くらいに縮めて作るのがよいかと思う。指定の暁には予算化して、プロの会社に制作依頼をするということもご検討いただきたい。あの映像自体は貴重な記録だと思う。あの映像は、今、資料館の映像ブースでいつでも観られるというような配慮はあるのか。

杉村館長 希望者はあまりいらっしゃらないが、観られるようにはしている。

西谷会長 それでは、この件については今年度指定の方向で手続きを進めていただくということにする。

森委員 もう一つ付け加えておいていただきたいのだが、藁にお酒でお清めをしていたところについても、一言、補足説明を入れていただきたい。清めるのがお酒だけなのかお塩も振るのかなど。

井係長 承知した。

4. 報告事項

西谷会長 それでは次に、報告事項の「平成 30 年度古賀市内文化財調査についての報告」について一括して説明をしていただきたい。

岩橋 (資料 21～29 ページに沿って船原古墳調査について説明)

井係長 (資料 31 ページに沿って開発に伴う受託調査について説明)

西谷会長 ただいま報告事項を一括して説明していただいたが、船原古墳調査関係についてご質問があれば発言を。

出土品の保存修理は九州歴史資料館でやっていただいている、10 年くらいかかるだろうという見通しだが、整理が済んだところから随時公開されていって、皆さんの関心が継続しているのは大変いいことだと思う。保存修理は全体の何割くらい終わったのか。

岩橋 クリーニングについては昨年度まで約半分くらい終わっており、今年度と来年度で、もう半分がおおよそ終わるといふ計画でやっている。

西谷会長 物が物だけに多大な時間がかかっているが、九州歴史資料館としても重点的にやっていただいている感じだろう。お手元にこういう冊子(別資料「国史跡船原古墳保存活用計画」)が用

意されているが、これについても何かコメントやご質問があれば発言を。

先ほど拝見した、今後指定の方向である盆綱も同じ谷山である。無形文化財と史跡は全然違うが、文化財という意味では一つなので、何か両者合わせて一体的な活用が考えられはしないかということをおもった。例えば、8月15日を谷山の文化財デーにして、昼の部は船原古墳の見学とか学習にし、夜は盆綱というのはどうか。二つ要素が加われば、谷山の地域がもっと光り輝くという感じがするのでご検討いただければ。

今橋委員 そういった意味ではこの（別資料「国史跡船原古墳保存活用計画」）57 ページに地図があるが、先ほどの盆綱はどの辺りで行われるのか。

岩橋 バス停のマークがついているかと思うが、ここが谷山の、先ほどの映像にも映っていた通りである。そのため、史跡にも比較的近い。

西谷会長 ぜひ、指定の暁には八幡宮の境内に盆綱の説明板を写真も入れて作っていただきたいと思う。それでは、もう一つの報告事項「私年号『亀光元年』銘墓石について」説明願う。

井係長 （資料33～34 ページに沿って私年号「亀光元年」銘墓石について説明）

西谷会長 これまでこの案件について何度かに渡って慎重審議しており、指定の方向で進んでいるが、沿革、指定の理由等について、最終的にこれでよいかということだが、意見があれば発言を。それでは、この案件を有形文化財として指定するということについては承認いただいたこととする。

では、以上で議事・報告事項と審議を終了する。

5. 閉会の言葉